

Grand Toit News

Grantow ニュース

vol. 35
Autumn 2013

島根県芸術文化センター
SHIMANE ARTS CENTER
石見美術館
IWAMI ART MUSEUM
いわみ芸術劇場
IWAMI ARTS THEATER

企画展紹介「自然によせた
日本人の心の豊かさにふれる」
劇場事業紹介「ワールド神楽フェスティバル
～舞い集う神々の宴～」

●特集 Grantow開館8周年記念感謝祭
「きんさいデー」開催

●「もうすぐ出番です！」 鈴木広志(サクソ奏者)

イベントカレンダー 2013年10月～12月

文化芸術の秋
きんさいデー &
室町文化フェスティバル
開催!



長谷川潔(1949)『一木一草に神をみる』1994年 横浜美術館蔵

企画展「一木一草に神をみる 自然と美術」について、
展覧会担当の廣田理紗主任学芸員にききました。

まずうかがいたいのは今回の展覧会タイトルについてです。なんだか神秘的な、不思議な印象を受けますが？

本展タイトル「一木一草に神をみる」は、長谷川潔の言葉をもとにしたものです。長谷川は大正から昭和の初めに活躍した版画家で、草や木の奥に神性、つまり「神さまがいる感じ」あるいは「特別に尊い大切なもの」とも言いたいでしょうか、そういう感覚を覚え、自然を厳しく見つめて描くことで世界の本质に迫ろうとしました。こうした長谷川の意識は日本には古くからあ

て、『古事記』の時代からつながっているものなのです。

『古事記』といえばおよそ1300年前に編纂されたものですね。そんなに古くからですか。

『古事記』の時代、自然はまさに神そのものでした。冒頭では、神々の国生みによって国土が作られ、続いて山や野、川、海といった自然の構成要素もまた神として生まれます。

まさに自然の中に神をみていたということですね。

『古事記』の中でも有名な「天

自然によせた 日本人の心の 豊かさにふれる

の岩戸」や「ヤマタノオロチ」の物語は、光が命を育む源であること、山河が時に命をも奪う恐ろしいものとなることを寓意的に示すものともいわれます。こうした物語の中で、神々はまるで私たち人間であるかのように情感豊かに描かれています。神は自然そのものだった、ということをおぼろげに思い起こせば、尊び、畏れながらも、一体感を覚えるという当時の人々の自然観、自然に対する思いが見えてきませんか。

なるほど。私たちも自然の一部だと。でも現代の、情報に溢れた便利な生活の中では、なかなか実感したい感覚のように思います。

そうですね。ですから自然をテーマに作られた美術作品を通じて『古事記』からつづくそうした日本人固有の自然に対する感覚をちょっと思い出してみませんか？というのが今回の展覧会なのです。例えば1799年に制作されたこの仏像(木喰《子安観音菩薩坐像(立木仏)》)を見て下さい。

木の中に仏像が彫られていますね！不思議…。

こうした仏像は「立木仏」と呼ばれ、元々は生きた樹木に彫られていたのですよ。神様は木や柱を依り代にしてあらわれると考えられていました。こういう思いをそのまま形にした例ですね。

思えば木の節が顔のように見えて、そう考えると途端に意志があるように思えた経験、あるような気がします。他にはどんな作品が展示されますか？

鈴木理策さんの《SAKURA N-74》。満開の桜が覆い被さってくるようでしょう。空に近い花にピントが合っていて、手前の

花はピンぼけしているのがわかりますか？

わかります。大きな桜に囲まれて、実際に自分がそこで見ているような感じがします。

私もそう思います。日本人はお花見が大好きですが、花見はもともと花の生命力を眼から得るという考えにもとづく行事ともいわれています。この桜は、奈良県は吉野の桜を撮影した作品です。吉野は神域でもあることを思い出せば、私たちは神の生命力を得て感動しているといえるのかもしれません。

展覧会を見て、自然の美しさや豊かさを見直すとともに、自然によせてきた日本人の心の豊かさにもふれる機会としていただけたらうれしいです。



木喰《子安観音菩薩坐像(立木仏)》江戸時代 愛媛・光明寺蔵

関連プログラム

◆公開制作

須田悦弘「草」をつくる
本展出品作家の須田悦弘が、皆さんの目の前で作品「草」を生み出します。
[日時] 9月14日(土) 10:00-18:00
(途中で休憩をはさみます)
[会場] 美術館ロビー ◎申込不要/観覧無料

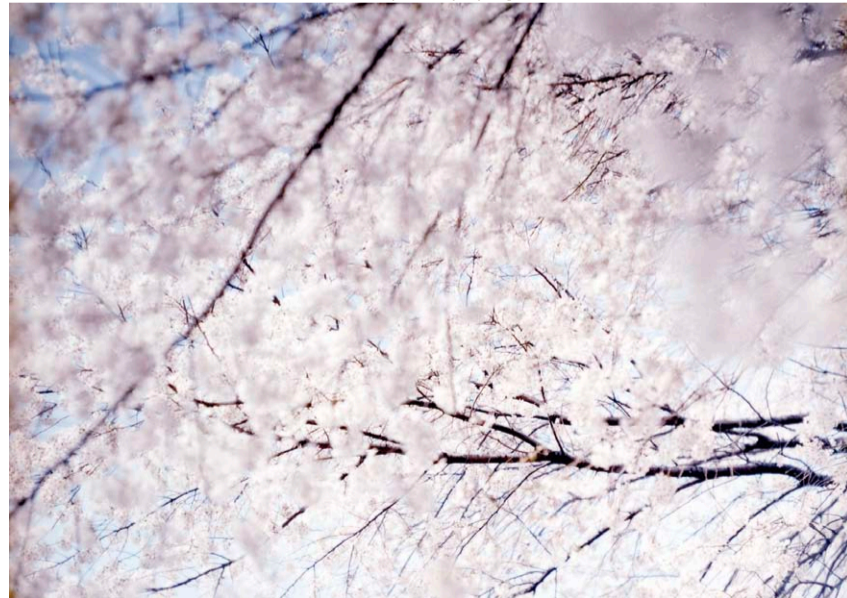
◆デッサン教室

身近な草をよく見よう、描いてみよう
当館の敷地内に生える雑草を採取して観察し、丁寧にデッサンします。
[日時] 10月12日(土) 10:00-15:00
(12:00-13:00休憩)
[講師] 左近充直美(当館専門学芸員)
[会場] 講義室 [対象] 小学4年生以上
◎要申込み/先着25名/参加無料
申込み方法:お電話にて、お名前、ご住所、年齢、電話番号をお知らせください。
TEL: 0856-31-1860(Grantow代表)

芽吹くペーパープレゼント!!

会期中毎日先着20名様に、展覧会オリジナル「ペーパーポット」をプレゼント。水につけて数日すると中に入った草の種が芽吹きます。うまく芽吹けばあなたのところにも小さな神が訪れるかも!

鈴木理策《SAKURA N-74》2003年 作家蔵 © Risaku Suzuki / courtesy of Gallery Koyanagi



開館時間/10:00～18:30(展示室の入場は18:00まで) 休館日/毎週火曜日

観覧料()内は20名以上の団体料金

[当日券] 一般:1,000(800)円、企画・コレクション展セット1,150(920)円
大学生: 600(450)円、企画・コレクション展セット 700(530)円
小中高生: 300(250)円、企画・コレクション展セット 300(250)円

[前売券] 企画・コレクション展セット 900円

※老人の日・老人週間:年内に65歳以上になる方は、9月15日(日)～9月21日(土)の期間、本展を無料でご覧いただけます。
※小中高生の学校利用は入場無料。 ※障害者手帳保持者および介助者は入場無料。
※前売券は、ローソン各店(Lコード67327)、主な旅行会社、各プレイガイドでお求めになれます。

主催/島根県立石見美術館、日本海テレビ、中国新聞社

神々の国しまねプロジェクト 企画展
一木一草に
神をみる
自然と美術

2013年

9月14日(土)～11月4日(月)

島根県立石見美術館

島根県芸術文化センター「Grantow」内

ワールド 神楽フェスティバル

舞い集う神々の宴



石見神楽(島根県)

世界の神楽がグラントワに集結！
11月2日〜4日に開催する「ワールド神楽フェスティバル」の見どころを紹介いたします。

な影響を与えたと
いう「佐陀神能」(島根県松江市)が出演。どちらも神職が舞い、伝統を重んじる神楽です。



ムードン(韓国)

海外からは韓国の「巫堂」、インドネシアのバリ舞踊・ガムランがお目見えします。

「巫堂」とは祈りを司る人を指します。韓国には村ごとに巫堂の家があり、日本の神楽同様に生活に根差した芸能が伝わっています。

バリ舞踊・ガムランの演目は呪術的な儀式舞「サンヒャン」。複数の演者がかたく目を閉じながらも呼吸を合わせ、寸分たがわず踊る姿が見どころです。

遺産の早池峰神楽(岩手)、傾斜のある独特な花道をしつらえた御嶽神楽(大分)など日本を代表する神楽が集結。それぞれの風土から生まれた神楽を思い思いに比較しながら楽しめます。



高千穂神楽(宮崎県)

神楽のこれから

フィナーレを飾るのは地元の石見神楽と、石見神楽に縁の深い神楽が登場します。

石見神楽は広島県に伝わり芸北神楽に影響を与えました。舞手に化粧を施し衣裳を光らせるなど娯楽的要素を取り入れ、人気を呼んでいます。



早池峰神楽(岩手県)

また、石見神楽は波頭を越え地球の反対側にまで伝わりました。ブラジルの日系3世たちが母国語であるポルトガル語の口上で本場石見の舞台を踏みます。そして最後はご当地石見神楽。会場を感動と興奮の渦に包みながらフィナーレを迎えます。国内外から総勢21社中(団体)が集う神楽三昧の3日間。ご期待ください。



芸北神楽(広島県)

古事記1301年

古事記に描かれた神々の時代を日本各地の神楽でたどります。天の岩戸に隠れた天照大神。天上世界に再び光を取り戻そうと神々が知恵を絞る「岩戸開き」を高千穂神楽(宮崎)が演じます。スサノオの八岐大蛇退治は備中神楽(岡山)の「八重垣」。能がかった所作が特徴の江戸里神楽(東京)は国譲りを披露します。



バリ舞踊(インドネシア)

このほか、ユネスコ世界文化



御嶽神楽(大分県)

本フェスティバルでは、神に捧げる舞をルーツとし、鑑賞に堪える国内外の神楽を各日のテーマに沿って上演します。

祈り〜神楽の源流

呪術的な神事を源とする神楽は、人々の敬虔な祈りとともに受け継がれ、今も生活の中に息づいています。それは日本だけに限らず、海外にもその精神は舞踊の形で伝わっています。



佐陀神能(島根県)

国内からは石見神楽の原型ともいべき「大元神楽」(島根県江津市)と、日本の里神楽に大き

LIFE with グラントワ

石見神楽とグラントワ

グラントワ開館以来、様々な石見神楽の公演がここで行われた。舞台設備が良く、照明に照らされ輝きを増した衣裳を見て、あらためて石見神楽の魅力を発見した人も多かったと思う。平成24年度まで開催された「石見の夜神楽定期公演」では、グラントワのスタッフと一緒に公演を創っていく中で、観る人の立場になってお客様へのサービ

スや鑑賞マナーについても熱心にアドバイスをいただき、色々な事を学んだ。また、平成23年にはサウジアラビア公演、その翌年にはアメリカ公演といった海外での上演も、グラントワの支援なくしては実現しなかったと思う。今後も神和会とグラントワの絆をいっそう強め、石見神楽を国内外へ発信していきたい。

これからは後継者を育成するため頑張らなくてはならないが、グラントワと神和会、そして地域全体で力を合わせて取り組み、石見神楽が地域の宝としてさらに輝きを増すよう願っている。

〔益田市石見神楽神和会会長 三原 薫充〕

PICK UP EVENT



第6回 室町文化フェスティバル 不思議空間

〜500年前にタイムスリップ 益田の室町文化を創造〜

11月9日(土)・10日(日)

10:00〜16:00 美術館ロビー(ほか)



今回は、これまでと少し雰囲気を変えて市・文化協会とグラントワの共催で晩秋に開催。恒例の茶道、連歌、盆栽、益田氏武者行列、菊花展のほか、メインステージとなる美術館ロビーでは詩吟、仕舞、産土の舞、民話と紙芝居などを観覧いただけます。雪舟庭園のある萬福寺を会場に「中世の食(有料)」も実施。中庭広場においては「和食」メニューがずらりと並んだ食ブースを用意しています。更に「室町色」を増した室町文化フェスティバルにご期待ください。

劇・場・を・探・る

舞台道具シリーズ 【美術バトン】



舞台上に様々なものを吊るすための装置をバトンと言いますが、中でも幕類や看板、スポットライトなどを吊るすためのバトンを「美術バトン」と呼びます。グラントワには大ホール22本、小ホール14本の美術バトンが備えられており、スイッチ一つで舞台天井から床面まで昇降し、最大500kgのものまで吊り下げることが可能です。

次回は「ピンマイク」です。

平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業
日本音楽集団を迎えて

島根邦楽 第8回演奏会

2013年9月29日(日)
いわみ芸術劇場大ホール
開場13:30/開演14:00

入場料 一般 2,000円[会員1,800円]
[全席自由・税込] 学生 1,000円[会員 900円]
※未就学のお子様のご入場はご遠慮願います

チケット発売中

流派、年齢、性別を越え結成された島根邦楽集団の第8回演奏会。プロの邦楽演奏家による「日本音楽集団」をゲストに迎え、邦楽の魅力や余すところなくお届けします。また、邦楽、弦楽、大人と子どもの合唱で構成されるグラントワフランチイズ芸術団体が一堂に会する迫力のステージも。

石見神楽の地である 島根県益田市へ 世界の舞いが集結する。

ワールド神楽フェスティバル

WORLD KAGURA FESTIVAL

〜舞い集う神々の宴〜

2013年11月2日(土)・3日(日)・4日(月・休)

開催時間 10:00〜18:00

会場 島根県芸術文化センター「グラントワ」各所

入場料

- 特別席A(複数席)指定席:1日券6,000円(全席付)
- 特別席B(指定席)1日券4,000円
- 1日券指定席:2,000円
- 3日間通し券:4,500円
- 1日券自由席:1,000円
- 子ども:500円

※石見美術館企画展「木一草に神をみる自然と美術入館料含む」

ワールド神楽フェスティバルでは世界の舞いを鑑賞できるだけではなく「民俗学者・神崎宣武氏が世界の「神楽文化」を語る基調講演」や、「石見神楽の大蛇体験、御幣・蛇胴作りワークショップ」、「神楽衣装・神楽面や神楽写真の展示コーナー」、「神楽めし」を堪能いただける「石見の食の祭典」ほか、見たり、聞いたり、食べたり、体験することができる様々な関連イベントをご用意しています。グラントワが「神楽一色」に染まる3日間、ご期待ください。

チケット発売中

大和証券グループ presents 辻井伸行 ショパン&リスト

辻井伸行 日本ツアー(ショパン&リスト)

辻井伸行 ショパン&リスト

2013年12月1日(日)
いわみ芸術劇場大ホール
開場13:30/開演14:00

入場料[全席指定・税込]
S席 6,800円[会員 6,500円] A席 5,800円[会員 5,500円]
B席 4,800円[会員 4,500円] ※未就学のお子様のご入場はご遠慮願います。
※営利目的の転売禁止。※曲目・曲順に変更の場合あり。

10月13日(日) チケット発売

特別協賛:大和証券グループ 主催:島根県、公益財団法人しまね文化振興財団
オフィシャル・エアライン:ANA 共催:芸術文化とふれあう協議会、日本海テレビ

文化芸術の秋をグラントワで過ごそう!

グラントワ開館8周年記念感謝祭

「きんさいデー」開催

2013年10月6日(日) 10:00 START!

島根県芸術文化センター「グラントワ」は、2005年10月に全国でも数少ない美術館と劇場の複合施設として開館しました。以来、これまでに述べ270万人以上という、とても多くのお客様に来館いただきました。

2013年10月、「グラントワ」は開館8周年を迎えます。これを記念して、毎年秋の恒例となりました感謝イベント「きんさいデー」を開催。グラントワの全ての施設を無料開放します。

石見美術館では、企画展「一木一草に神をみる 自然と美術」を含む全ての展示室に終日無料でご入場いただくことができます。美術ファンの方はもちろん、これまで美術館は少しハードルが高くないか?と思っていた方も、どうぞお気軽にお越しください。

西日本でも有数の舞台広さを持ついわみ芸術劇場大ホールでは、子どもから大人の方まで気軽に参加いただける「大型スクリーンを体感しよう」を開催。

幅11m、高さ8.2m(畳50帖以上!)のスクリーンを使って、デジタル文化の一翼である体験型ゲーム作品を楽しんでいただけます。家庭用の大画面テレビとも違う大きな画面でのプレイ感覚は参加してみないと分かりません。ゲームは苦手という方も、迫力あるスケールの映像は一見の価値あり。立体感ある音響とあわせてご堪能ください。

小ホールでは、地域の伝統芸能・石見神楽とグラントワならではの劇場機構をフルに活用した劇場版神楽「グラントワ×神楽」を午後2時より実施。「祀る」をテーマに、神に捧げる伝統の舞いを披露します。神楽小物づ

くりのワークショップも行います。どうぞ、お見逃しなく。

この日の中庭広場は1辺25mの水盤から水が無くなり、イベントと食を楽しむ空間「きんさい広場」に変わります。コンサート、ダンスなど各種イベントが披露される特設ステージ「きんさいステージ」や、グラントワ提携店を中心に食欲の秋を満たしてくれる多彩なグルメを集めた「きんさい食堂」などをご用意いたします。

そのほか、グラントワ全館を使って各種催しを終日開催。10月6日の「きんさいデー」は、家族そろってグラントワへ遊びにきんさい!

もうすぐ! 出番です!



鈴木広志 (サクソフーン奏者/作曲家)

「モダンガールズあらわる。」これは私が2008年に初めてグラントワで演奏した時(遊佐未森さんのコンサート)の展覧会タイトルです。昭和初期の「美人画」展というたまたまの内容。当時東京からの飛行機は早朝の1本のみ、夜行性ミュージシャンにとっては地獄の早起きでフラフラでしたが、美人画の数々に癒されて良い演奏してしまいました。更に益田の皆さんも美人揃いで、「またここに来たいなあ」と思っていたら…なんと1年後に学芸員の方(美人)からお声がかかり、その後も度々出演させていただいています!

さて今回の公演メンバーはといいますと一徳川夢声もビックリ? 巧みな話術に加えオリジナルアニメにも才能を光らせる活動弁士・坂本頼光、甘いマスクと煌めくピアノの大口俊輔、ドンガラガッシュン雷様も顔負けのドラム・小林武文、サクソフーンやリコーダーをホット&クールに演奏する私、鈴木広志(以上は人気シリーズ「名画をいろどる話芸と音楽」でおなじみ)に、楽器も身体も音も特大! テューバ・古本大志を加えてお送りします。お楽しみにー!

※詳しくは、4ページ「はみ出し情報」をご覧ください。

鈴木広志 SUZUKI HIROSHI
2003年東京芸術大学卒業。全国でのコンサートのプロデュースやCD参加も多数。NHK朝の連続ドラマ小説「あまちゃん」ではテーマ曲と劇中の音楽の演奏を担当(2013年4月〜)。
<http://suzuki-hiroshi.com/>



美術館も終日無料



ホールのイベントも鑑賞無料



大人から子どもまで楽しめるステージ



きんさい食堂でおなかも満足



各種体験コーナーあり

※記載の内容は予告なく変更になる場合がございます。予めご了承ください。

みさき 美術館に よいて

特別展 「原清 陶芸展」
10月17日(木)
～12月15日(日)
会場: 展示室A

記念ギャラリートーク
原氏自身による作品解説。
10月27日(日) 11:00～



原清《鉄釉花鳥文盒子》
2010年 島根県立美術館蔵

The 石見美術館 わたしのおすすめ Collection

主任学芸員 川西由里

マックスは、森鷗外がドイツのミュンヘンに留学していた時、下宿の隣に住んでいた画家です。鷗外のエッセイによれば、マックスの家で制作を見学したこともあったようです。時間ができれば美術館に行ってヨーロッパ絵画の名品に触れていた鷗外は、マックスとの交友によってさらに西洋絵画についての知識を深めたことでしょう。

この絵の元の題名は不明ですが、女性が古代風の衣装を着ているので神話を描いたものと考



ガブリエル・フォン・マックス
《煙を出す壺を抱く女性》
制作年不詳

え、該当する話を探したところ、「パンドラの壺(箱とされることもあります)」にいきあたりました。神様から「決して開けてはいけない」と言われた、この世の災いをとじこめた壺が、今まさに開くところ。女性の妖艶な笑みと、華やかでありながらちよっぴり怖いところが、この絵の魅力です。

「原清 陶芸展」について、担当学芸員の河野克彦さんにききました。

Q1. 原清さんは、どのような方ですか?

昭和11年(1936)島根県簸川郡庄原村(現・出雲市)に生まれ、現在は埼玉県の寄居町にお住まいです。平成17年(2005)に鉄釉陶器の技法で「人間国宝」と呼ばれる重要無形文化財の保持者に認定され、日本伝統工芸展を中心に活躍されています。近年、原さんは本展で紹介する121点の作品を島根県へ寄贈されました。

Q2. どのような作品を作られているのですか?

重要無形文化財に認定された「鉄釉陶器」の技法は、釉薬に含まれる鉄分を黒色、褐色などに発色させるものです。原さんの鉄釉陶器の作品に描かれるモチーフの多くは、身近な自然に題材を求め、黒と褐色の2色によってそのシルエットを表現しています。

2013年9月22日(日) いわみ芸術劇場小ホール 開演13時30分 開演14時

入場料 一般/1,000円 中学生以下/500円 全席自由

9月のテーマ「猛ぶ激しくせむぎ合う英雄たち」

チケット発売中

10月はきんさいデー(10月6日)で開催のため鑑賞無料!
※時間・演目等の詳細は、決まり次第、HP等でお知らせします。

Grand Toit Theater

第22回しまね映画祭益田会場
平成25年度文化庁優秀映画鑑賞推進事業
「家族で楽しむアニメ特集」

会場 いわみ芸術劇場 小ホール
入場料 一般:500円/会員:400円/子ども:300円(一日券)
(3歳～小学6年生以下) [前売・当日同料金]
※託児サービスあり

10月13日(日)
西遊記(1960年)
13:00～14:28 ※開場は30分前
[脚本]植草圭之助 [演出]萩下泰司・手塚治虫

太陽の王子
ホルスの大冒険(1968年)
14:40～16:02 ※開場は10分前
[脚本]深沢一夫 [演出]高畑勲

10月14日(月・祝)
長靴をはいた猫(1969年)
13:00～14:20 ※開場は30分前
[原作]シャルル・ペロー
[脚色]井上ひさし、山元謙久

火垂るの墓(1988年)
14:40～16:09 ※開場は10分前
[原作]野坂昭如 [脚本・監督]高畑勲

石見美術館コレクション展

展示室 A 特別展 益田糸操り人形
8月31日(土)～10月13日(日)

展示室 A 特別展 原清 陶芸展
10月17日(木)～12月15日(日)
※「美術館にきてみよう」参照

展示室 B コレクション展 キモノガールズコレクション
8月7日(水)～9月16日(月・祝)

展示室 B コレクション展 森鷗外の交流録
9月18日(水)～11月18日(月)
※「The Collection わたしのおすすめ」参照

展示室 C コレクション展 雲谷等顔とその一派
10月2日(水)～11月10日(日)
雪舟の跡を継ぎ、毛利氏の御用絵師として活躍した雲谷等顔と、その流派「雲谷派」を紹介します。

展示室 C コレクション展 草間彌生
11月13日(水)～2014年1月13日(月・祝)
日本を代表する現代美術作家・草間彌生の作品を集めます。草間の独特な芸術世界をお楽しみください。

ミズ観にレビュー - キモノ・ビューティーとても良かったです。静かにゆっくりと見る事ができました。昔の着物の制作技術に驚かされました。かんざし・帯もステキでした。(50代 女性/「Kimono Beauty キモノ・ビューティー ーシックでモダンな装いの美 江戸から昭和ー」) - とても立派な会場が始まる前からテンションが上がりました。いいライブでした。益田のお客さん熱い!! (60代 女性/「井上陽水 LIVE 2013 Missing」) - 今、私は60代。これからのこと、とてもこの映画を通して考えさせられました。家族について、やはり私もなるべくなら人の世話にならないよう、自分の出来ることを元気で楽しんでいきたいです。(60代 女性/グラントワシアター「東京家族」)

